板の割り出しを体験する親子と沼澤さん(右)

思わずうなる職人の技

松の館西側に移築復元を進めている市指定文化財「旧木造中央公民館講堂」の工事現場で7月21日、現代では珍しくなった屋根葺きの工法「柾葺き」の作業実演会が開催されました。

この日は、全国でも数少ない屋根葺き職人・沼澤修一さん(千葉県在住)が講師を務め、市民ら約30人を前に柾板の割り出しを実演。専用の木槌とナタで直径約50㎝の県産ヒバ丸太を次々と2等分していき、縦約25㎝、横約10㎝、厚さ1.5㎜の柾板を何枚も作り出しました。

参加した市内の板金業・中村乙さんは、親子で板の割り出しを体験。中村さんは「木の癖があってうまく割れない。昔の人の技術はすごい」と感心していました

不戦の誓いを新たに

7月25日、松の館で「戦没者追悼・平和祈念式」が開催され、市民ら約150人が、先の大戦で亡くなった1,325人を悼み、恒久平和を願いました。

式典では、福島市長が「今日の平和と繁栄は多くの犠牲のもとに築かれていることを忘れず、恒久平和の確立に向け不断の努力を続けていく」、市遺族会の工藤光則会長が「戦争の記憶が風化した今、悲惨さや平和の大切さを子や孫の世代に正しく伝えていく」と追悼の言葉を述べました。その後、参列者一人一人が祭壇に白菊を手向け、戦没者に思いを馳せていました。

最後は童謡「蕾の会」が追悼合唱を披露し、平和を願うハーモニーが会場に響き渡りました。

花を手向ける参列者

パフォーマンスに集まる見物客

多彩な芸が夜を盛り上げる

7月22日と23日、木造の夏の夜を彩る「三新田まつり2019」が有楽町・千代町の商店街で開催されました。

歩行者天国として開放された路上では、至る所でダンスやよさこいライブ、マジックショーなど多彩なパフォーマンスが披露され、訪れた見物客が足を止めて声援を送っていました。

また、ビアガーデンやいろんな出店も軒を連ね、多くの市民らでにぎわいました。

7月20日には、下木造地区のカッパ広場周辺で伝統の「灯ろう流し」を開催。それぞれの願いが込められた灯篭が次々と古田川に放され、参加者はゆっくりと下っていく明かりを静かに見守っていました。

すべて英語の体験合宿「English Camp」

「English Camp at つがる地球村」が8月1日から1泊2日の日程で行われ、市内の中学生35人が、英語でのコミュニケーションを体験しました。

今年が4回目のキャンプは、市教委が主催。県でトップクラスを誇る市の中学英語力を育む県内でも珍しい取り組みです。

生徒たちは、テーマに沿った寸劇作りなどいろんなプログラムに挑戦。「活動中は英語だけ」というルールの中、うまく話せない時にはジェスチャーなどを交え、何とか伝えようとがんばっていました。木造中2年の木村響さんは「英語で話すことはめったにないので、とてもいい機会。外国の人に道を聞かれたときなど、気軽に話せるようになりたい」と話していました。

ネイティブスピーカーと一緒に取り組む生徒ら

一坪地主がメロン収穫体験

畑一坪から採れるメロンを全国へお届けする企画「メロン一坪地主」が今年も行われました。首都圏を中心に804人(1,427口)から申し込みがあり、収穫時期を迎えたつがるブランドメロンが各地の地主へ発送されました。

その地主の中から希望者を募る「メロン収穫体験ツアー」には、66の応募から選ばれた20人が参加。ツアー初日の8月3日に長谷川孝一さんの畑(木造越水)を訪れ、自ら選りすぐったおいしそうなメロンを楽しそうに収穫していました。東京都町田市から参加した岩田理恵さんは「ビニールドームの広がる景色が印象的。暑い中の収穫で農家さんのご苦労を少しだけ感じることができました」と笑顔で振り返りました。

おいしそうなメロン採れました!

安全願い鍬を入れる福島市長

地域に愛される消防署に

8月8日、「北消防署」の建設工事安全祈願祭が豊富町の建設予定地(むらおこし拠点館フラット向かい)で行われました。工事は来年6月に完了予定、同年9月の運用開始を目指します。

市では、持続可能な消防体制の構築と圏域の医療機能の充実を両立させるため、消防署の再編に取り組んでいます。北消防署のほか、稲垣西小跡地に建設中の「稲垣分遣所」が年内に完成し、北消防署に合わせて運用を開始。これにより、現在の3分署は廃止され「1本部、2署、1分遣所」体制に移行します。

また、北消防署内には車力出張所が移設され、市役所機能を併せ持ちます。祈願祭で福島市長は「市民を守る身近な庁舎として愛されるよう取り組んでまいります」と力を込めました。

「読書」 時代や国境を越えた出会い

7月28日、八戸学院大学短期大学部客員教授の三村三千代さんによる市立図書館開館3周年記念講演「読書の楽しみ～本は心の窓、世界への扉～」がイオンモールつがる柏で開催され、約80人の市民らが熱心に耳を傾けました。

講演では、ひらがなの成り立ちなどを解説し、文字が発達したおかげで距離や時間を越えて伝えることができると強調。自身の思い入れのある本などを紹介しました。三村さんは「本を読むことは、いろんな時代のいろんな人に出会うということ。閉ざされていたと思っていた自分の心が開き、それが世界の扉を開くことにつながる」と読書の魅力を伝え「本を愛し、つがる市立図書館を愛してください」と話していました。

読書の魅力を語る三村さん

踊りを楽しむ参加者たち

踊りの輪 心ゆくまで

イオンモールつがる柏駐車場で8月17日、「つがる市盆踊り大会」が開催され、市内外から参加した約1,000人が、踊りの輪を広げました。

大会は実行委員会の成田昭司委員長が「最後まで踊っていい汗をかいてください」とあいさつし開会。この大会の定番曲「かしわ音頭」などが流れる中、やぐらの上では23団体が息の合った組踊りを披露。やぐらの周りでは、浴衣姿の観衆や家族連れが続々と集まり、二重三重の輪になって約2時間、心ゆくまで踊りを楽しんでいました。

大会の最後には大輪の花火が打ち上げられ、訪れた人たちは、過ぎ行く夏の贅沢な時間を満喫していました。